

ロード・ツーリズム先進国

オーストラリアの交通事情



株式会社JTB北海道
市場開発室
プロジェクトディレクター

菅野 剛

1.はじめに

オーストラリアがなぜここまでロード・ツーリズムが盛んになったか、それは、広大な大地の国土開発の歴史背景がある。

オーストラリアは都市人口比率が極めて高いことが特徴的で現在も人口の約70%が南東部の海岸線都市(シドニー・メルボルンなど)に集中して居住している。それはイギリス植民地として始まった開拓の流れが、都市部から植民地形成が行なわれた事によるものだ。

その海岸線都市を結んでいるシンプルでわかりやすい主要交通網を資源として、オーストラリアでは早くからロード・ツーリズムを主な観光形態とした事で注目されてきた。

この広大な大地を結ぶシンプルな道路網がロード・ツーリズムの為のインフラ整備を極めて早い段階で作り上げる事ができた背景と言える。

2009年4月筆者は、オーストラリアのシドニーから南に100kmほどにある街、シェルハーバーにてコンサルタント業を営む友人の協力のもと、セルフドライブの魅力を探りにツーリスト・ドライブを視察した。

ロード・ツーリズムの先進国、オーストラリアの交通インフラは、ドライブ・ツーリストにどれだけ快適な環境を提供しているのか、その魅力を事例で紹介したい。

2.ニューサウスウェールズ州のロード・ツーリズム推進事例

前項でも述べたように、ロード・ツーリズムをいち早く発展させてきたオーストラリアは、点在する魅力とアクセスをサポートするロードサインや、それらを編集したツーリスト・ドライブマップといったツールを活用してドライブ・ツーリストのニーズに対応してきた。

訪れる人に感動を与えることが観光の本質であれば、さもすれば通りすぎてしまうような資源をどのように伝えていくかが、その地域を魅力的に輝かせ、人気観光地としてブランディングされる事につながる。

このような観光客の視点に立った仕組みを構築する事は一朝一夕で達成できるものではなく、制度の壁を乗り越え様々な課題を解決する事で実現する。

一般的に観光客は、行政の敷いた管轄区のみで観光を楽しむばかりではない。オーストラリアに旅行をしたいと思い立ったときにはエリア全体を見て「どこで何をするか」といった観光動機に基づき時間やコストのバランスで旅程を組み立てる。もし、行政独自で観光振興を進める場合は、当局が地域の観光資源をパンフレットなどに整理して情報を発信するが、観光客にとっては楽しみたい魅力とそれにとまなう観光行動を自分で整理して考えないとならない。これは、かなりの手間であり、折角、楽しめる素材があっても通り過ぎてしまう可能性がある。

これまで述べたように、観光客がスムーズに観光を楽しめる仕組みづくりの為に行政境界を越えてツーリスト・ドライブの推進を目的とした組織としてニューサウスウェールズ州(NSW州)政府機関に「TASAC」(Tourist Attraction Signposting Assessment Committee)が存在している。「TASAC」はセルフドライブ観光者向け道路標識「ツーリスト・サイン」についての統括組織であり、道路管理者であるRTA(Road and Traffic Authority)やTourism NSW、観光

資源整備を担当している地域の観光協会のメンバーで構成され、セルフドライブを楽しむ旅行者の観光行動をより安全でスムーズなものとしている。

なお、TASACその意義を遂行するために担っている役割として以下の7つに整理されている。

- 1) ツーリストサインポリシーの開発
- 2) ツーリスト・サインにおける適正評価と認定
- 3) ツーリストサインポリシーの規定
- 4) ツーリスト・サインについての戦略策定における各省庁との調整
- 5) 各州を統括したツーリスト・サインのマネージメント
- 6) TASAC構成機関へツーリスト・サインについての情報リリース
- 7) ツーリスト・サインの品質管理

では、その具体的な制度や仕組みについて紹介したい。

〈ツーリスト・サイン〉

ツーリスト・サイン（図-1）は、観光客の求める魅力である観光資源をドライブルート上で明確に整理・編集し訴求したものだ。

その意義は、大きくふたつ、観光ドライバーに対し、安全かつ効果的な道案内を行う、目的地までの範囲で主なアトラクションや提供サービスを訪問観光客へ情報提供する事にある。

このアトラクションをアイコン化したツーリスト・サインの一般的な認定ルールとして

1. その施設は最低でも3～6ヶ月の運営経過を有している。
2. 予約なしで、観光客がいつでも気軽に立ち寄れる。
3. 十分なパーキングスペースと利用可能なトイレがある。
4. 最低でも週5日間、年52週の営業日が必要。
5. 午前9:30～午後4:30をこえる営業時間である。



図-1 オーストラリアの一般および高速道にある観光者向け道路標識。TASAC (Tourism Attraction Signposting Assessment Committee) により認定され、それぞれの地域が管理している。

そのほかにもアトラクションは個別に「TASAC」の認定条件によって厳重に管理されている。

例えば、美術館では、質的向上のために、7つの項目で管理されている。（表-1）

表-1 管理項目（美術館）

項目	内容詳細
変化ある美術展の開催	美術展は定期的に内容変更されなければならない、美術展年間プログラムをTASACへ提出することが義務づけられている
展示品のバラエティー	展示品は複数のアーティストによるバラエティーのあるものか、一人のアーティストに限られたものかを、TASACへ提出することが義務づけられている
ガイディング	施設訪問観光客へガイディングツアーやガイドブック、音声ガイド、パンフレット、展示説明ボードなどが提供されなければならない、これらのコピーやシステムについての説明を、TASACへ提出することが義務づけられている
展示スペース	展示スペースは50m ² 以上でなければならない
展示場	各展示場（部屋）の写真をTASACへ提出することが義務づけられている
スタッフの資格	施設スタッフは展示物について説明ができ、資格を有することが義務づけられている
宣伝・プロモーション	どのような宣伝・プロモーションを行うのかの計画案をTASACへ提出することが義務づけられている

このようなアトラクションのクオリティーを維持管理するためのルールが厳重化され、「TASAC」のもと、観光業界全体が連携した仕組みを構築し旅行者の満足度を向上させている。

〈リージョナル・ツーリスト・ドライブ (Regional Tourist Drive)〉

ツーリスト・サインの概念がアトラクションのクオリティーの維持管理であれば、リージョナル・ツーリスト・ドライブは、そのルート上に点在する観光スポット、またはルートからの美しい景観を整理編集して情報を発信する事を目的としている。

この認定には交通量増加に伴う耐久度と安全性、さらには国道など主要道路とのアクセスの利便性が条件となり、認定後に地域がツーリスト・ドライブの情報発信、告知プロモーションを十分に行うことが出来るか否かも問われる。

具体的にはツーリスト・ドライブマップを制作し、地域の観光情報センター（iセンター）にて配布することが条件としてセルフドライブの旅行者へ提供されている（図-2、写真-1）。

リージョナル・ツーリスト・ドライブには、アドバンス・サインとよばれる道路標識が活用されており、州道または地域道から、ツーリスト・ドライブへのアクセスアプローチに活用されている。

原則、都市部の場合は右左折のポイントから100～200メートル前、都市部以外では300～400メートル前に設置する事となっているが道路のスピード制限や視界といった諸条件により実態に即した形で設置されている。



図-2 ドライブマップで示されるツーリスト・ドライブ



写真-1 地域の観光情報センター (iセンター)

他にも、「交差点サイン」「確認サイン」「アドバンスマーカー」「交差点マーカー」「終点マーカー」といった複数のサインがあり、リージョナル・ツーリスト・ドライブを楽しむ観光客に対し安心・安全でスムーズなセルフドライブ環境を提供している。

〈テーマ・ツーリスト・ドライブ
(Themed Tourist Drive)〉

ルートに「遺産」「国立公園」「原住民」「産業」などの明確なテーマ性があり、テーマを構成する観光個所がルート上に点在するドライブルート。このテーマは「ワイン」「ビーチ」「食品」など一般的なものは除外となる。また、ルートのスタート地点と終了地点には観光案内所の設置が条件となる。

この認定にも、リージョナル・ツーリスト・ドライブ同様、交通量増加に伴う耐久度と安全性が条件となり、また、認定後に地域が情報発信、告知プロモーションを十分に行うことが出来るか否かと、将来にわたる地域によるルートの魅力維持が問われる。

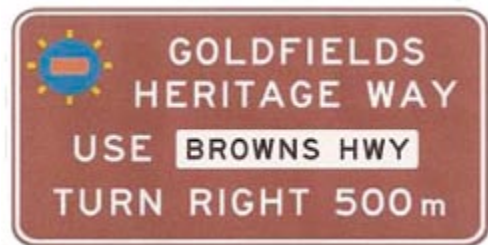


図-4 テーマ・ツーリスト・ドライブのアプローチサイン

このように、ニューサウスウェールズ州のロード・ツーリズムは、観光客が効率よくセルフドライブするための仕組みとして、地域間が連携し整備と情報発信をおこなっており、ドライブ観光が推進されているのがわかる。

次項では、広大なオーストラリアを効率的にセルフドライブするために開設されている宿泊施設の情報を紹介したい。

3. オーストラリアのセルフドライブ
観光客向け宿泊施設「キャラバンパーク」

オーストラリアでロード・ツーリズムが発展してきた要素のひとつとして「キャラバンパーク」と呼ばれるセルフドライブ観光客向け宿泊施設の存在が大きい。その規模は、スペースの年間リース型・観光客用宿泊施設型・キャンピングカー駐車型といったタイプ別に全国に約23万9千ヵ所存在しており、2004年のデータになるが、年間でおおよそ880万人の国内旅行者と32万人の訪豪国際観光客がこのキャラバンパークを利用している。

国内旅行者のキャラバンパーク宿泊数総計は5千万



写真-2
ツーリスト・ドライブの
アプローチサイン



図-3
アドバンス・サイン

泊（オーストラリア国内旅行者宿泊数全体の約17%）におよび、訪豪国際観光客のキャラバンパーク宿泊総計は2千100万泊（訪豪国際観光客のオーストラリア宿泊数全体の16%）となっている。

それぞれの旅行日数平均は、国内旅行者は5.7泊、海外からの国際観光客に関しては65.8泊という長期間での利用がデータとして表れており、その経済効果は推して知るべしだろう。

ちなみに、利用者の滞在（旅行）目的については、国内旅行者の77%、訪豪国際旅行者の73%がホリデー目的で、次いで知人・友人訪問が国内旅行者の10%、訪豪国際旅行者の14%となっている。



写真-3 キャラバンパーク内のiセンター



写真-4 キャラバンパークに駐車しているキャンピングカー

キャラバンパークの施設タイプは「1年契約型」「観光客用宿泊施設型」「キャンピングカー駐車型」の大きく3つに分かれており、表-2のような概要となっている。

表-2 キャラバンパーク施設タイプ

施設タイプ	料金・利用形態
1年契約リース型	通常1年契約（最大150日利用）で約350,000円、土地のみの契約となりキャラバンは私物
観光客用宿泊施設型	キッチン・食器等常備、1泊約10,000円
キャンピングカー駐車型	土地のみで1泊約1,500円（水道やその他施設利用可）

4. オーストラリアのドライブ観光向け環境保全型アトラクション 「トゥリー・トップ・ウォーク」

セルフドライブによる旅行者は一般的な観光客に比べ、持ち家を所有している50歳以上のシニア層が多いことが特徴的である。彼らは友人付き合い、ガーデニング、読書、日帰りセルフドライブ観光、歴史的建造物・美術館鑑賞等に興味を持つ傾向にある。なかでも観光シーンでは、危険性が少ない自然鑑賞を好む傾向で、その特性を一言で現わすと「危険を回避した上での新たな発見を望む、環境保護論者」といったところだろうか。

シニア層がセルフドライブに求める数値データをご覧いただくと、彼らの行動特性をおわかりいただけるだろう。

表-3 50-64歳のシニア層がドライブ観光で望むこと

自然鑑賞を好む	79%
混雑回避型の観光を行う	80%
地域文化との接点・経験を望んでいる	72%
観光のセルフドライブ旅程作成・手配を自ら行う	69%
都市型観光を旅程に入れることを望む	11%

このように、オーストラリアでは、セルフドライブによる観光客への有効な魅力提供としてビクトリア州、タスマニア州、西オーストラリア州、ニューサウスウェールズ州の4箇所にトゥリー・トップ・ウォークと呼ばれる自然鑑賞を目的とした観光アトラクションが設置されている。

◆
トゥリー・トップ・ウォークは森林内にかけてたつり橋のようなもので、景観は飛行機や気球からのものと同様で、森林の根を踏み歩く事無く森林や野鳥を異なった角度から鑑賞でき、地上とは異なる生態系が見られるのが特徴である。また、森林等への観光客によるいたづらも回避できるため、環境に優しい新たな観光アトラクションとして、高い人気を集めている。ちなみに、2008年3月15日にNSW州シドニー南部のイラワラ地区にトゥリー・トップ・ウォークが完成した。建設費は約650万オーストラリアドル（約4億2千2百万）でオーストラリア連邦政府DOTARS（Department of Infrastructure, Transport, Regional Development and Local Government）の地域支援プ

로그램にて賄われている。

オープン直後の週末には1,000人の集客実績があり、年間では約20万人の集客、5年間で50万人の集客が予想されているほど高い集客力を持つ施設として期待されている。

施設には、簡単な食事を取れたり、オリジナル商品が販売されているなど、旅行者の憩いの場として利用されており、ロード・ツーリズムのディストネーションのひとつとして、非常に良くできたアトラクションと言えるだろう。



写真-5 イラワラ地区 Illawarra Fly Tree Top Walkに設置されている店舗



写真-6 イラワラ地区 Illawarra Fly Tree Top Walkのオリジナルグッズ



写真-7 イラワラ地区 Illawarra Fly Tree Top Walkの地上45mの展望台



写真-7 イラワラ地区 Illawarra Fly Tree Top Walkの展望台から望む風景

ちなみに、本格的なスティールキャノピーは世界に下記4箇所のみで全てオーストラリアにある。

表-4 本格的なスティールキャノピー

① ビクトリア州 Otway Fly Tree Top Walk	
規 格	全長:600m 高さ:25m
入場料	大人=19.5オーストラリアドル 子供=(6~16歳)=9オーストラリアドル ファミリー(大人2人+子供2人)=49.5オーストラリアドル シニア=17オーストラリアドル
② タスマニア州 Tahune Air Walk	
規 格	全長:597m 高さ:20m
入場料	大人=22オーストラリアドル 子供=(5~16歳)=10オーストラリアドル ファミリー(大人2人+子供2人)=45オーストラリアドル 学生・シニア=19.8オーストラリアドル
③ 西オーストラリア州 Valley of the Giants Treetop Walk	
規 格	全長:420m 高さ:40m
入場料	大人=8オーストラリアドル 子供=(6~15歳)=4オーストラリアドル ファミリー(大人2人+子供2人)=22オーストラリアドル
④ NSW州 Illawarra Fly Tree Top Walk	
規 格	全長:500m 高さ:25m 展望台:45m
入場料	大人=19オーストラリアドル 子供=(6~16歳)=9オーストラリアドル ファミリー(大人2人+子供2人)=49オーストラリアドル シニア=17オーストラリアドル

これまで、紹介してきたオーストラリアにおけるロード・ツーリズムの推進事例は、ドライブ観光客のニーズを的確にとらえ、それに対応すべく厳格なルールのもとで維持管理されている事である。これによって、セルフドライブによる観光客の満足度を高め、多くのファンを獲得することでロード・ツーリズムの先進地として明確な地位を確立している。

我が国でも休日のETC割引によってドライブ旅行が拡大したが、セルフドライブをおこなう観光客の現状は、沢山の情報ソースの中からアトラクションを選定しカーナビゲーション等を頼りに目的地へ向かうのが主な行動形態である。

今回の視察旅行からロード・ツーリズムの先進地オーストラリアに習ってセルフドライブをおこなう観光客のサービス拡大に向けた環境整備を行なうことが急務だと感じている。そのためには、関係事業者がロード・ツーリズムの魅力拡大と利便性向上を目標にしつかりと連携しておこなうことが、個人旅行化が進む現状における観光立国として盤石な地位を確立することにつながるだろう。

取材協力: Global Solutions Strategies